

生体試料バンクに望まれること ～研究基盤に対するアカデミアからのニーズ～

2017年4月17日(月)

第1回 ゲノム医療実現のための
研究基盤の充実・強化に関する検討会

東京大学大学院医学系研究科 南学正臣

【認識】

- 生体試料バンクは世界をリードするような今後の研究の進展に必要不可欠なもの
- ただし、使用される方々が増え、研究の一層の推進につながるためには下記のような点が改善される必要がある

【改善点】

1. サンプルの使用手続きについて
2. 臨床データの解析について
3. 解析場所について
4. 血液や尿のサンプルの採取過程の基準について
5. 検体の提供者の情報について
6. 複数のステップの存在
7. 予算処理の問題
8. 健常者のサンプル
9. その他

【改善点】

1. サンプルの使用手続きについて

どうやったらサンプルを使わせて貰えるのか、公募課題に応募して採択されないとサンプル(あるいはサンプル情報)にアクセス出来ないのか、一部のラボしかサンプルを使わせて貰えないのか、などが分かりにくい。

2. 臨床データの解析について

検索条件を提出して結果をもらえるまでに1~2ヶ月と時間がかかることがある。予定する解析数は目的と予算によって決まっており、それに合致しない数が抽出されると条件を変えた再解析を依頼する必要があり、更に1~2ヶ月かかる。事務局の方々は人数も限られており他の業務もあって忙しいことは理解できるので、security が担保された状態で研究者自身が臨床データベースにアクセスして検索ができるシステムがあると使いやすい。

【改善点】

3. 解析場所について

主研究施設に security が担保されたサーバーなどを置いていただき、**遠隔で研究者が解析を行えるようなシステム**があると、効率的。

4. 血液や尿のサンプルの採取過程の基準について

血清サンプルを作製する過程（凝固剤入りの試験管に室温で何分放置してから遠心分離したのか、など）がサンプル間で統一されて、**サンプルプレップの方法**が適切であることが望ましい。検体の採取状況（採取後の処理までの時間など）によっては影響を受けやすいデータがあり、血小板も凝固する過程で様々なものを放出することもあり、採取状況の詳細情報が整理され、**保存試料のクオリティコントロール**が出来ていることが望まれる。

【改善点】

5. 検体の提供者の情報について

特に治療の個別化、最適化を検討する場合には、検体の提供者に関してできるだけ**詳細な属性情報**が必要。各検体で過去に測定されたことのある検査項目についても、(無償又は有償で)閲覧可能又は利用可能となるような仕組みがあったほうがよい。

また、疾患によって必要とされる情報や検査項目は異なるので、CDISCにおけるTASのようにそれぞれの**疾患領域の専門家の意見を入れた疾患特異的な情報および検査項目の確保**が望まれる。

6. 複数のステップの存在

基礎情報検索、試料入手、解析などいくつかのステップがあり、1つのステップが順調に進んでも次のステップに時間がかかることがあるので、**すべてのステップがビジネスライクに進む**ことが望まれる。

【改善点】

7. 予算処理の問題

予算が通って倫理申請の承認がなされ、大規模解析のための入札を行って、サンプル数を適正にするための条件検討を行い、それから解析を依頼すると、結果が出るのに年度をまたぐことが予想される。これを避けるために急いで解析をすることは本末転倒であり、このような場合に**年度をまたぐことは**是認されるようなルール作りが必要。

8. 健常者のサンプル

比較対象群としての**健常者のサンプル**が入手可能であると良い

9. その他

値段や血液・尿以外の臓器などのサンプルの入手可能性